
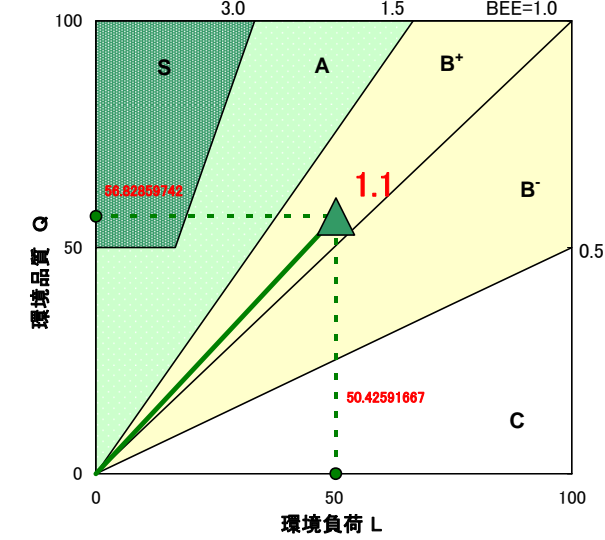


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	社会福祉法人回生会「アゼリア」	階数	地上1F		
建設地	熊本県人吉市蟹作町3690	構造	S造		
用途地域	都市計画区域内 無指定地域	平均居住人員	60 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	病院.	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2011年8月 予定	評価の実施日	2010年9月27日		
敷地面積	8,752 m ²	作成者			
建築面積	2,369 m ²	確認日	2010年10月1日		
延床面積	2,265 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ CASBEE 評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	☆☆☆☆☆	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	☆☆☆☆	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	☆☆☆	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	☆☆	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	☆	劣る	0.5未満	—

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

80

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	81.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	80
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	87.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	68.2

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2008年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	社会福祉法人回生会「アゼリア」	階数	地上1F
建設地	熊本県人吉市蟹作町3690	構造	S造
用途地域	都市計画区域内 無指定地域	平均居住人員	60人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年8月 予定	評価の実施日	2010年9月27日
敷地面積	8,752 m ²	作成者	
建築面積	2,369 m ²	確認日	2010年10月1日
延床面積	2,265 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 80

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 82

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 80

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 88

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 68

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE[®]熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

設備計画では、LCCO2・イニシャルコスト・ランニングコストを考慮して、高効率かつ汎用機器を採用。

Q1 室内環境

個別空調設備を採用し、室毎の温度設定・発停を可能とする。居室にはルームエアコンを採用し、居室毎の発停可能とし、またスタッフエリアでの一括管理も可能な計画としている。廊下・食堂などの共用部の照明点滅は、2線式制御システムを採用し、事務室・スタッフエリアでの集中管理を可能な計画としている。

Q2 サービス性能

空調・給排水配管ではB以上を採用することによりLCCO2の低減に努めている。情報設備の将来対応用として各居室に配管を計画。

Q3 室外環境（敷地内）

建物外部(光庭含む)には、適切に散水栓を配置。

LR1 エネルギー

給湯設備では、高効率器具である潜熱回収型ガス給湯器を採用。また、ろ過設備を採用することにより上水使用量の削減にも努めている。高効率機器類（Hf照明器具、変圧器）や人感センサー、LED照明器具の採用により電力使用量の削減に努めている。

LR2 資源・マテリアル

ノンフロン・ノンハロンとして設備計画とする。

LR3 敷地外環境

ガス給湯器では、潜熱回収型を採用することにより大気汚染防止に努めている。

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
社会福祉法人回生会「アゼリア」

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境			0.40					3.2
1 音環境		3.3	0.15	3.8	1.00			3.3
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.8	0.40	5.0	0.40			
1 開口部遮音性能	外部サッシュは、すべてT2とする。	5.0	0.40	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	5.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	5.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	5.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20			
2 温熱環境		3.3	0.35	3.0	1.00			3.3
2.1 室温制御		3.7	0.50	3.0	0.50			
1 室温設定		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
4 ゾーン別制御性	個別空調設備の採用、居室は1:1ルームエアコンの採用	5.0	0.38	3.0	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 待機が空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		2.4	0.25	3.3	1.00			2.4
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率		1.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口		3.0	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		2.0	0.15	3.0	0.15			
1 照度		2.0	1.00	3.0	1.00			
2 照度均等性		-	-	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気環境		3.8	0.25	3.6	1.00			3.8
4.1 発生源対策		3.0	0.50	3.0	0.63			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 アズベスト対策		-	-	-	-			
3 ガス・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		4.5	0.30	4.6	0.38			
1 換気量	建築基準法の1.4倍の換気量を確保	5.0	0.50	5.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	-	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	光庭より外気を導入	4.0	0.50	5.0	0.33			
4 脱臭計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.4
1 機能性		4.2	0.40	4.4	1.00			4.2
1.1 機能性・使いやすさ		5.0	0.60	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	居室は、15.0㎡/室・人。	3.0	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	2.0	-			
3 バリアフリー計画	建物移動等円滑化誘導法案の基準を満たしている。	5.0	1.00	3.0	-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.40	3.5	0.40			
1 広さ感・景観		3.0	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	3.0	-			
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理		-	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-			3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	硬質塩化ビニル管、硬質塩化ビニルライニング鋼管の採用	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			2.8	0.29	2.6	1.00
3.1 空間のゆとり			2.2	0.31	2.2	0.50
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	0.60
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	1.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.1	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性	PS、地下配管ピットの確保	4.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮		地域景観に配慮した平屋建てとし、開放感のある配置としている。	4.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	2.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			2.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR=10	4.4	0.30	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-
1.1	節水	節水型衛生器具の採用、擬音装置の採用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-
1	消火剤	ハロン消火剤の未使用	4.0	0.33	-	-
2	断熱材		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮			3.5	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止	高効率ガス給湯器(潜熱回収型)の採用	4.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制	駐車状設置に関して適切な配置計画を行う。	4.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	外部に集塵置場を設置し分別回収を容易にしている。	4.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-
1	騒音		-	-	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.67	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			1.6	0.33	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 社会福祉法人回生会「アゼリア」

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v3.2)_kmt2010(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-熊本《新築》2010年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		80
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				81.7	0.40	32.68
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				80	0.20	16.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	5.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				87.5	0.20	17.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				68.2	0.20	13.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数